

平成31年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 工業・商業系列等を持つ総合学科として、多様な進路実現を可能にし、生徒が夢を実現できる学校、地域・保護者から厚く信頼される学校をめざす。
 1. 「探そう 東総 明日の自分！」をキーワードとしてキャリア教育・職業教育を力強く推進する学校。
 2. 「基礎的・基本的な知識・技能の習得と主体的な活用」を目標に授業で鍛える学校。
 3. 「よりよい社会を切り拓いていく人間」になるため、学校・家庭・地域等が一体となり、多様な他者との共有を図り、教育活動を展開する学校。
 4. 「目標達成に向け意欲的に取り組む学校運営体制」を確立し、府民の期待に応えられる学校。

2 中期的目標

- 1 確かな学力の育成と主体的・対話的で深い学びの実現
 - (1) 総合学科の特長を生かした実業教育・キャリア教育を推進し、3年間の学びで総合的な学力を育てる。
 - ア、3年間の体系的なキャリア教育プログラムを発展させる。
 - イ、外部人材・外部組織の積極的な活用やインターンシップの拡充により、実業教育の充実に努め、資格取得を促進する。
 - ウ、四年制大学のAO入試・公募制入試・一般入試を視野に入れ、進学指導を充実させる。
 - *進路実現については、進路未決定率（平成30年度 2.2%）を引き下げ、2021年度年には0%をめざす。
 - 4年制大学進学者数（平成30年度 32名）を引き上げ、2021年度には50人以上をめざす。
 - (2) 学ぶ姿勢を確立し、基礎・基本の習得を中心に「確かな学力」の育成に努めるとともに、その主体的な活用をめざす。
 - ア、学校経営推進費を活用した「TRY ルーム」等を活用し、グループ学習を充実させ、生徒の「書く」「話す」能力を育成することで、本校のキャリア教育をより進化させる。
 - (3) 確かな学力の育成と主体的・対話的で深い学びの実現のための「魅力ある授業づくり」をめざして、授業改善に組織的に取り組む。
 - ア、学力向上プロジェクトチーム（GPT）を中心に、本校のめざす授業について考察し、教員相互の授業見学の機会を促進させる。
 - *学校教育自己診断の「学習指導に関する」項目の生徒評価（平成30年度 69.6%）を、2021年度には、80%以上にする。
 - イ、資格取得を系列・教科の学習の1つの目標とすることで、将来を見通した学力を育成し進路実現につなげる。資格取得プロジェクトチーム（SPT）を中心に、多様な資格の情報を提供し資格取得のための講習や補講を行う。
 - *3年間の資格取得者の割合（平成30年度 121名、53.1%）を増やし、2021年度には70%以上に増やす。
- 2 社会とつながる力の育成
 - (1) あいさつ、服装、遅刻、清掃などの指導に全教員で取り組み、基本的な生活習慣を確立させ、規範意識を育む。
 - (2) 体育祭・文化祭等の行事を通して、クラス活動や各種委員会活動で生徒会活動の活性化をはかる。
 - (3) 部活動の種類と質を充実させるとともに、地域行事、学校説明会・オープンスクール等でのボランティア活動の機会を増やし、生徒力のより一層の活性化をはかる。
 - ア、部活動活性化プロジェクトチーム（BPT）を中心に、部活動の活性化をはかり、地域の行事等に積極的に参加する。
 - *2021年度までの3年間、引き続き中退率を1.0%以下にする。（平成30年度中退者 10名、中退率 1.4%）
 - *部活動加入率（平成30年度 47%）を増やし、2021年度には55%にする。
 - (4) 道徳教育推進教師と人権教育推進委員会の連携を通して、道徳教育、人権教育を推進する。
- 3 地域連携と広報活動の充実
 - (1) 保護者面談や適宜の家庭訪問によって家庭との日常的な信頼関係を築くとともに、メルマガ等によって学校情報の確実な伝達をめざす。
 - (2) 中学校教員対象説明会や中学校訪問により生徒情報を把握して指導に生かすとともに、平野区や子供相談センター等と連携し生徒の就学保障につとめる。
 - (3) ホームページの更新、オープンスクール等の充実、近隣の小中学校への出前授業の実施等により、学校の情報や魅力の発信に努める。
 - (4) 地域公開講座・PTAバザー等を継続して実施し、地域行事等への教職員と生徒の参加を積極的に支援する
 - ア、広報プロジェクトチーム（KPT）を中心に、中学校の教員、中学生、保護者や地域への効果的な広報活動について見直し、検討する。
 - *学校説明会・オープンスクールへの参加者（平成30年度「637」名）を増やし、2021年度には、平成30年度比10%増やす。
- 4 生徒を支える校内体制の充実
 - (1) 首席連絡会や運営委員会、職員会議等の各種会議の連携を強化し、分掌・学年が情報を共有、協力して迅速に課題解決にあたることのできる体制を整える。
 - (2) SCや支援教育コーディネーターを活用し、教育相談委員会・生徒支援委員会との連絡を密にし、各学年との連携体制を機能させる。
 - *学校教育自己診断「各分掌や各学年間の連携が円滑に行われ、有機的に機能している」の項目教職員評価（平成30年度 56.9%）を増やし、2021年度には75%にする。
 - (3) 自己と他者を認め合いお互いに協力しあえる雰囲気づくり(生徒間、教職員間、生徒・教職員間ともに)を全教職員が意識する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和元年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
【学習指導等】 ・授業への工夫について、教員向けの肯定的回答は、「グループ学習など学習形態の工夫・改善を行っている」の項目では昨年より2.8%増加し83.8%、「他の教員の授業見学機会」の項目では同じく8.3%増加し85.5%であった。一方、生徒向けの肯定的回答でも、「授業はわかりやすく楽しい」の項目で昨年より2.6ポイント増加し58.4%、「学習意欲に	第1回(7/17) ○学校の現状及び平成31年度学校経営計画について ・大学定員の厳格化により大学入試が難化傾向にあるということだが、大学進学へのニーズが高まってきているので、ひきつづき進学希望生徒への対策に取り組んでいただきたい。

府立東住吉総合高等学校

応じた学習指導の方法や内容の工夫」の項目で同じく 4.2 ポイント増加し 71.0%、「教え方に工夫している先生が多い」の項目で同じく 3.6 ポイント増加し 69.7%であった。

・学力向上プロジェクトチーム（GPT）を中心にパッケージ研修Ⅰを活用しながら、本校のめざす授業について考察し、教員相互の授業見学の機会を増やしたことが肯定的回答の増加につながったと思われる。

【生徒指導等】

・教育相談体制の充実については、日頃から教育相談室と保健室の連携を図るとともに、教育相談支援委員会を月 1 回開催（SC 同席）し、生徒を支援した。教育相談体制の整備についての教員の肯定的回答は昨年度と同様 87.1%（昨年度 87.7%）と高い。また、「気軽に相談できる先生の存在」についての生徒の肯定的な回答も昨年度より 2.6 ポイント増加し、66.8%となった。

・一方、生徒指導について、生徒向けの肯定的な回答は、「学校生活についての先生の指導には納得ができる」の項目では昨年度より 0.8 ポイント増加し 62.7%、「先生は協力して生徒指導に当たっている」の項目では同じく 0.9 ポイント増加し、77.2%となった。引き続き、生活規律や学習規律などの基本的習慣の確立に力を入れていく。4 年間で数値は漸次増加。

・進路指導について、「学校は進路についての情報を知らせてくれる」の項目では、生徒の肯定的な回答は 81.9%で、ここ 3 年間 80%以上を保っている。教員の肯定的な回答も高く、きめ細かい進路指導が行われている。

【学校運営】

・学校運営について、教員向けの肯定的回答は、「各種会議が意思の疎通や意見交換の場として機能している」の項目が 3 年間漸次増加していたものの、今年度は昨年度より 10 ポイント減少し 50.0%、「各分掌や各学年間の連携と有機的機能」の項目は同じく 10.1 ポイント減少し 46.8%であった。

・また「学校運営に教職員の意見が反映されている」の項目は同じく 0.8 ポイント減少し 61.3%であり、4 年間で数値は漸次微減した。

・一方で、「校長の教育理念、学校運営についての考えの表明」の項目では教員向けの肯定的回答は、昨年度より 5.4 ポイント増加し 91.9%、「校長のリーダーシップの発揮」の項目では同じく 7.1 ポイント増加し 87.1%であった。

・校長としては教職員の意見にしっかり耳を傾けつつ、大局を見据えた学校運営を行っていく。また、各種会議内での意思決定のあり方、各分掌と学年との連携などにも目を配りながら、生徒のために教職員が知恵を絞り、教職員自身が主体的・能動的に教育活動を展開できるよう支援していく。

・各学年間の連携は年次主任会議の定着によりスムーズに行われている。

・「校内研修は、教育実践に役立つような内容となっている」の項目では教員向けの肯定的回答は、昨年度より 3.8 ポイント増加し 71.0%（4 年間漸次増加）、「校内研修組織の確立と計画的な研修の実施」の項目では同じく 22.6 ポイントも増加し 72.6%であった。これは前述したパッケージ研修Ⅰ（教育センター主催）を活用したことが肯定的回答の増加につながったと思われる。

・「能力に応じた校内人事、校務分掌の分担」の項目では教員の肯定的な回答は昨年度 11.6%減少し 49.1%となっていたため、教職員が意欲的に取り組める環境整備を意識し調整した結果、昨年度より 17.1 ポイント増加し 66.2%となった。

・「事故、事件、災害等に対する迅速な対応と役割分担の明確化」の項目では教員の肯定的な回答は、昨年度より 5.5 ポイント減少し 75.9%であったが 2 年前、3 年前に比べて数値は高い。昨年度は、6 月からの地震、豪雨、台風、猛暑などへ対応を迫られたことからポイントが上昇したものである。今後も地域と連携し平野区ハザードマップの活用や二次避難場所経路方法等、学校安全・危機管理についての体制を検証し、防犯及び防災計画を作成していく。

・文化と教養系列について、保育系をめざす生徒など様々な進路選択があると伺っている。系列の特色をわかりやすく伝えていただければありがたい。

・中学でも、いろいろな取り組みを行っているが、東住吉総合高校はいい方向に向かっているので今後参考にしたい。

・文化祭の P T A バザーについて、以前は保護者や地域の人からの協力も得ることができていたが、最近はバザーの商品も集まりにくい状況である。今年は例年に比べて何か違う取り組みを考えている。

・通学時の、交通ルール、マナー等非常に良くなってきているが、自転車通学について今後も気をつけて指導してほしい。特に学校前の交差点での信号無視等のマナーには注意が必要。

・生徒の意識はいい方向に向かっていると感じている。右肩上がりの学校。

第 2 回（9/19）

○授業を見学して

・生徒が楽しく授業を受けているという印象。教師もそれを上手く引っ張っている。

・生徒の意欲を上手く引き出していた。

・以前は教師の一方的な授業の印象が強かった。今回は生徒がグループになって教師のいうことも聞いて、生徒が積極的に授業に参加している印象であった。

・ここ何年間で学校全体が進歩している。なお一層取り組んで欲しい。

・見学した授業をもっと聞きたいという印象であった。教師の授業展開が上手い。

・理解できないことを、その場で理解させる授業の進め方で、生徒の自信につながっている。もう一度、授業を受けてみたいと思った。

・生徒が授業に意欲的に参加しており、自分も一緒になって最後まで授業を聞きたいと思った。先生方も教材研究等をよくされていて、生徒の為によく頑張っておられる。

・生徒が明るい。全員がひとつの目標に向かってやっている。授業に参加していない生徒がいない。教科書等の教材も全員が持ってきている。

・住環境実習の衛生設備室で冷房が入っていないことや、椅子なども古いものがあり、施設面での充実の必要性を感じる。中学でも特別教室での空調設備が整ってなくて困っている。

・教室のカーテンの汚れもなく、非常に教室がきれいであった。

・生徒の授業への参加態度が非常に良かった。

・徐々に対話的な授業が求められるようになってきている。一方通行の授業でもよいところはある。教師が追求し続けることが大切。探し求める姿勢が求められている。

・学力をつけることも大切であるが、課題を解決することで「生きる力」をつけさせることも大切。これからの社会での過ごし方等につなげるような取り組みも行っている。

・若い先生方が授業改善プロジェクトチームを経験し、次の世代の先生方が引き継いでいる。継続して授業改善に向けた取り組みを行っており、前向きに取り組んでいる学校だと思った。

○その他

・生徒たちの環境改善について、何かひとつでも前向きに検討をお願いしたい。生理的欲求をみだすトイレと食堂について改修してほしいという意見もある。

・大阪府の予算状況からは難しいと思うが、できる範囲で生徒の学習環境を整えて欲しい。

・地域としてもできる範囲で協力させていただく。

第 3 回（R2.2/18）

○学校教育自己診断について

・「学校に行くのが楽しい」と感じている生徒が年々増えている。

・全体的に肯定感が上がっている。教員も工夫されていることが感じられる。

・かなり努力している。マイナス面についても気を抜かず、これからも頑張ってもらいたい。

・部活動についての数値が下がっているのが気になる。様々な要因があるが今後の課題。

・生徒の意欲を上手く引き出している。

・ P T A 活動については、連絡事項が保護者に伝わりきれてなかったり、手紙を渡さない生徒もいる。

○分掌・年次報告について

・学年、分掌等できめ細やかな指導をいただいている。

・保護者が学校での生徒の様子を見る機会が増えたと、保護者は子どもを見るチャンスになる。

・自転車通学マナーについては、教員の立ち番指導により苦情もほとんどなくなった。

・地域がもっと学校に参加できる地域交流の機会をもっと増やしてほしい。

・数字が上がっているところと下がっているところを見ていってほしい。

○平成 31 年度学校評価（案）及び令和 2 年度学校経営計画「めざす学校像」及び「中期的目標」（案）について

・全体的に肯定感が増加していて良くなっている。様々な改善がなされ教員も工夫されていることが感じられる。この調子で頑張ってもらいたい。

・生徒会活動、文化祭、体育祭などの生徒主体の活動への肯定率は、もっと高くてもいいはず。

・キャリア教育で平野地域の製造業グループの社長との意見交換会の「フィールドコア平野」をさせていただいている。リーダーの生徒や各係の生徒は係の仕事を手伝ってやっており、生徒が主体的に取り組んでいる。学校が変わってきているのを感じる。

・数値目標も大切であるが、利益を追求するわけではない。数値にこだわらず、生徒のために考えることも大切。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成と主体的・対話的で深い学びの実現	(1) キャリア教育の推進 ア、体系的キャリア教育プログラムの充実	(1) キャリア教育の推進 ア・「TRY ルーム」をキャリア教育の拠点とし、キャリア教育プログラムの取り組みを一層充実させ、生徒の進路意識の早期の向上に努める。 ・学校マネジメント予算等を活用し、フィールドコア平野をはじめ地元企業などの外部人材と連携した、キャリア教育を実践し、進路指導を充実させる。 ・「文化と教養系列」のあり方を系列長を軸に模索し、キャリア教育の推進をはかる。	(1) ア・学校教育自己診断「系統的なキャリア教育を行っている」の項目教職員の肯定率を引き続き 80%以上にする。 (平成 30 年度 80.7%) ・就職一次試験の内定率 90%以上。(平成 30 年度 89.2%) ・進路未決定率を引き続き 3.5%以下にする。 (平成 30 年度 2.2%)	(1) ア・「フィールドコア平野」と生徒との交流会や外部企業を招いて職業についてのアクティブラーニングを実践した結果、教職員の肯定率は 80%以上(80.6%)を維持し、生徒肯定率は 82.4%に上った。 (◎) ・就職一次内定率は 84.3%に留まった(難易度の高い企業を受験したため)。(△) ・進路未決定率は、0.9%に減少した。(◎)
	イ、資格取得の促進と実業教育の充実	イ・資格取得を系列・教科の学習の 1 つの目標とし、資格取得プロジェクトチーム(SPT)を中心に、多様な資格の情報を提供し、長期休業中等を活用した資格取得のための補習・講習をさらに充実させ、質の高い資格に挑戦させる。	イ・3年間の資格取得者の割合を 5%増やし、134 名・58%以上にする。 (平成 30 年度 53.1%)	イ・今年度の資格取得数は 96 名・43.8%で目標に達成しなかった。(△)但し、当該学年は、一方でボランティア、インターンシップ等の学外活動にも重きを置いており、資格取得と合わせると 142 名・68.0%になった。(○)
	ウ、進学指導の充実	ウ・「英数系列長」を軸に AO 入試・公募制入試・一般入試を視野に入れ、生徒に対する講習を充実させながら、進学指導を拡充させる。 ・「TRY ルーム」を講習や放課後自習室として開放することにより、進路実現に導く。 ・教育産業の模試を各学年全員に実施し、自己の学力の到達度を客観的に知ること、進学意識の向上と受験学力の育成に 1 年次から取り組ませる。	ウ・中堅大学合格者を含め、4 年制大学合格者 45 名以上。 (平成 30 年度 32 名)	ウ・今年度 4 年制大学合格者は 5 名増加し 37 名。(○)
	(2) 生徒の学力の現状把握とニーズに合った授業の実践	(2) 生徒のニーズに合った授業の実践	(2)	(2)
	ア、ICT を活用した授業の推進	ア・教育産業による学力分析システム等を活用し、生徒の学力の経年変化を把握する。 ・学力向上プロジェクトチーム(GPT)を中心に、確かな学力の育成と主体的・対話的で深い学びのための実践方法を模索する。 ・「探求」を視野に入れた課題研究やアクティブ・ラーニングなどの主体的・対話的で深い学びを各教科で実践する。 ・ICT 機器を有効に活用して授業ができる教員を増やすことで、教材の共有化をはかり、教材研究にかかる時間の短縮をすすめる。 ・年 2 回の公開授業週間などを活用し、教員相互で授業観察を行い、観察シートを提出する。	ア・学校教育自己診断「教え方に工夫をしている先生が多い」の項目生徒肯定率 70%以上。 (平成 30 年度 66.1%) ・ICT 機器を有効に活用して授業ができる教員 75%以上。 (平成 30 年度 71.4%) ・教員の相互授業観察件数 50 件以上 (平成 30 年度 33 件)	ア・主体的・対話的で深い学びを各教科で実践した。「教え方に工夫をしている」の生徒の肯定率は 69.7%でほぼ目標値。 (○) ・ICT 機器を有効に活用して授業ができる教員は 80.7%に増加した。(◎) ・若手教員の授業公開などで授業観察を実施した。教員による授業観察件数は 51 件(○)
	イ、政治的教養を育む教育の推進	イ・生徒会と社会科が協力して、授業を組み立て、平野区の選挙管理委員会との連携を図って実践する。		イ・1 年次の各クラスで政策を決定し、平野区選挙管理委員会と連携して、学年全体で模擬選挙をおこなった。この取組みは各クラス 6 班で作成した学校改善のマニフェストから最終的に 1 つの政策を決定し学校経営に反映するもので、非常に効果的な主体的・対話的で深い学びとなっている。 (◎)
	ウ、芸術系 3 科目合同卒業制作発表会の実施	ウ・音楽Ⅲ、美術Ⅲ、書道Ⅲ選択者合同の卒業制作発表会を通して、主体的・対話的で深い学びを実践する。		

府立東住吉総合高等学校

	<p>(3)「魅力ある授業づくり」をめざした授業改善 ア、授業アンケートの有効活用 イ、教育内容の充実</p>	<p>(3)「魅力ある授業」をめざした授業改善 ア・年2回の授業アンケートを実施し、振り返りシート・授業見学をもとに授業改善に取り組む。 イ・学力向上プロジェクトチーム(GPT)を中心に、ICTの活用や主体的・対話的で深い学びの実践などに関する校内研修を計画して教員同士の授業観察を促進し授業改善に取り組む。</p>	<p>(3) ア・振り返りシートの提出率、1・2回とも80%以上 (平成30年度1回目80.0%、2回目83.6%) イ・授業アンケートの平均値3.30以上 (平成30年度3.20)</p>	<p>(3) ア・授業アンケートと振り返りシートにより授業改善に取り組んだ。提出率第1回89.5%、第2回87.7% (◎) イ・GPTを中心に「魅力ある授業」をめざし、パッケージ研修Iの活用及び授業見学・意見交換会(1/27-1/31)等を実施したことで、「教え方に工夫をしている先生が多い」の生徒の肯定率は69.7%でほぼ目標値(前掲)を達成した(○)が、授業アンケートの平均値は3.16に留まり目標値には達成しなかった。引き続き校内研修の充実を図る。(△)</p>
<p>2 社会とつながる力の育成</p>	<p>(1) 基本的な生活習慣の確立と規範意識の育成 ア、生徒指導部を中核とした指導体制の充実 (2) 生徒会活動及びクラス活動の活性化 ア、体育祭、文化祭実行委員会の活性化 (3) 部活動の充実 ア、部活動の活性化に向けた取り組み推進 (4) 人権教育と道徳教育の推進</p>	<p>(1) 基本的な生活習慣の確立と規範意識の育成 ア・年度初めに、生徒指導事例研修を行い、校内で統一した指導体制を再確認する。 ・遅刻指導・頭髪指導は年間を通して計画的に実施する。 ・遅刻者への早朝指導、放課後指導の中で、「時間の大切さ」を自覚させ、遅刻常習者を減少させる。 ・清掃指導を充実させ、生徒の清掃当番を確立し校内美化に努める。 (2) 生徒会活動及びクラス活動の活性化 ア・生徒会部創設3年目で進化をとげてきた生徒の自主性を尊重し、さらによりよい活動・行事へと発展させる。 ・体育祭・文化祭については生徒の主体性を喚起しつつ、地域への一般公開を実施する。 ・生徒の各種委員会の活性化をはかる。 ・学校行事への生徒サポーターの参加を促進する。 (3) 部活動の充実 ア・部活動活性化プロジェクトチーム(BPT)を中心に、体験入部、部活動の活動や発表の「見える化」、運動部の中学生向け「東総カップ」など、本校の部活動について検討する。 ・本校HPへ部活動の活動状況の更新を迅速にする。 (4) 人権教育と道徳教育の推進 ・道徳教育推進教師と人権教育推進委員会の連携を通して多様な手法により人権ホームルーム等の充実をはかり、人間としての在り方生き方についての考えを広める。</p>	<p>(1) ア・年間遅刻総数を引き続き2,000件未満維持。 (平成30年度「1,935」件) ・学校教育自己診断「生活規律や学習規律などの基本的な生活習慣について」の項目生徒肯定率78%以上。 (平成30年度74.5%) (2) ア・学校教育自己診断「生徒会活動は活発である」の生徒肯定率70%以上。 (平成30年度67.6%) ・文化祭、体育祭に関する生徒肯定率80%以上。 (平成30年度78.6%) (3) ア・部活動加入率50%以上 (平成30年度47%) ・「部活動に積極的に取り組んでいる」の項目生徒肯定率を引き続き65%以上に維持。 (平成30年度65.9%) (4) ・「授業などで豊かな心や人の生き方について考える機会がある」の項目生徒肯定率73%以上。 (平成30年度70.7%)</p>	<p>(1) ア・遅刻指導特別週間を行うも、2,126件。(△) ・「基本的な生活習慣」に関する生徒の肯定率、74.5%で横ばい。年次と連携し年次間で統一した指導の充実を図る。(△) (2) ア・生徒活動についての生徒の肯定率は66.4%に留まり目標値には届かなかった。(△)一方で、生徒会担当は、生徒主体の生徒会活動を常に意識し、生徒の意見を取り入れ常に改善しつつおき、学校運営協議会でも高い評価を得た。(○) ・生徒の主体性を重視した体育祭・文化祭の生徒の肯定率は78.0%に留まり目標値には届かなかった。(△)一方で、生徒の意識が高まっていることについて、学校運営協議会でも高い評価を得た。(○) (3) ア・BPTで部活動の活性化に取り組んだが、部活動加入率は、46.4%に留まった。(△) ・「部活動に積極的に取り組んでいる」の項目生徒肯定率は60.8%に留まり、目標値には届かなかった。(△)引き続きBPTで部活動の活性化に取り組む。 (4) ・「授業などで豊かな心や人の生き方について考える機会がある」の項目生徒肯定率は72.1%で目標値にわずかに届かなかったが、1.4ポイント上昇した。(○)</p>

府立東住吉総合高等学校

3 地域連携と広報活動の充実	<p>(1) 家庭との日常的な信頼関係をつくる</p>	<p>(1) 家庭との日常的な信頼関係の構築 ア・学校情報の保護者への伝達の豊富化に努め、保護者の理解と協力を仰ぐ。 ・学校HPにある、PTA専用のタブを活用し、授業参観、学校行事、PTA行事等の保護者向けの情報の発信を迅速に行う。 ・教職員のPTA活動への参加を促す。</p>	<p>(1) ア・学校教育自己診断「この学校の授業参観や学校行事に参加したことがある」の項目保護者肯定率62%以上 (平成30年度58.1%) ・「教職員はPTA活動に参加している」の項目教職員肯定率40%以上。 (平成30年度33.9%)</p>	<p>(1) ア・HP、PTA通信により、学校情報の保護者への伝達に力を注いだ。授業参観・学校行事への参加に対する保護者の肯定率は61%で目標直ぐすかに届かなかったが、29ポイント上昇した。(○) ・「教職員はPTA活動に参加している」の項目教職員肯定率は45.2%に上昇した。(◎)</p>
	<p>(2) 中高連携と関係機関との連携を強める</p>	<p>(2) 中高連携と関係機関との連携強化 ア・クラブ交流等を通して、地元の中学校との連携を促進する。 イ・中学校教員への出前説明会を広める。 ウ・生徒主体の学校説明会、オープンスクール等の充実。</p>	<p>(2) ア・クラブ交流等の回数を昨年度比10%増(平成30年度28回)</p>	<p>(2) ア・出前授業やクラブ交流の回数は38回で35.7%増。(◎)</p>
	<p>(3) 学校の情報や魅力の発信</p>	<p>(3) 学校の情報や魅力の発信 ア・ホームページの外注を視野にいれリニューアルを検討する。 ・各分掌に配置した広報担当によるホームページの更新をすすめ、学校情報の迅速な発信を行う。 ・広報プロジェクトチーム(KPT)を中心に、QRコードを活用した学校情報の発信について検討する。</p>	<p>(3) ア・学校説明会等参加者昨年度比5%増。 (平成30年度参加者延べ「637名」)</p>	<p>(3) ア・外注によりリニューアルしたHPが完成。2月中旬より運用開始。(◎) ・校長ブログ件数34件(平成30年度30件)。昨年度より4件、13.3%増加。(◎) ・KPTを中心に学校紹介DVDを刷新した。今年度学校説明会等参加者は、597名で6.3%減。 ※但し、10月学校説明会は台風19号のため中止。</p>
	<p>(4) 地域連携の充実</p>	<p>(4) 地域連携の充実 ア・喜連西地区活動協議会に参加し、連携をさらに推進する。 ・引き続き、平野区との連携事業「ひらの青春生活応援事業」に取り組み、平野区長と平野区内府立高校の意見交換会に年2回参加する。 ・喜連西小サマーキャンプ、喜連西納涼盆踊り黄昏コンサート、地域公開講座、産業交流フェア等へ生徒を参画させ、PTAバザー等とともに地域連携を積極的に支援する。</p>	<p>(4) ア・学校教育自己診断「地域連携」の項目教員肯定率84% (平成30年度82.8%)</p>	<p>(4) ア・地域連携に関する教員の肯定率90.4%で目標を大幅に上回った。(◎)</p>

府立東住吉総合高等学校

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">4 生徒を支える校内体制の充実</p>	<p>(1) 全校的な指導体制をつくる ア、情報の共有化、見える化</p> <p>(2) 個々の生徒への支援体制の強化 ア、教育相談体制の充実と各種会議との連携</p> <p>イ、教員力の強化</p>	<p>(1) 全校的な指導体制の構築 ア・首席会議、年次主任会、分掌会議を定例化し、分掌業務において、分掌主導で情報を共有し年次間の足並みをそろえた指導をおこなう。 ・校内共有フォルダに各会議の記録をアップし、全教職員が閲覧できるようにする。</p> <p>(2) 個々の生徒への支援体制の強化 ア・高校生活支援カードを活用し、SC と連携して生徒支援体制を実りあるものにする。 ・教育相談委員会を月 1 回開催し、SC の会議への参加を促す。 ・他校の実践を取り入れ、常駐体制を整備する。 ・人権侵害事象対策会議、いじめ対策会議等との情報共有を行い、学校全体で生徒を支援する。</p> <p>イ・自己と他者を認め合いお互いに協力しあえる雰囲気づくり(生徒間、教職員間、生徒・教職員間ともに)を全教職員が意識する。 ・経験の少ない教員の学級経営力を高めるために、教務・進路・生徒指導研修やクラスづくり研修等を実施し、教員の資質の向上を図る。 ・初任者育成チームを結成し、チームで育成する。 ・授業改善プロジェクトチーム等による主体的な研修を計画的に行う。</p>	<p>(1) ア・学校教育自己診断「各分掌や各学年間の連携が円滑に行われ、有機的に機能している」の項目教職員肯定率 70%以上。 (平成 30 年度 56.9%)</p> <p>(2) ア・中退率 1.0%以下。 (平成 30 年度 10 名、1.4%) ・教育相談に関する生徒肯定率 67%以上。 (平成 30 年度 64.2%)</p> <p>イ・学校教育自己診断「教職員間の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている」の項目の教職員肯定率 70%以上。 (平成 30 年度 66.1%) ・「経験の少ない教職員を育成する体制がとれている」の項目教職員肯定率 60%以上。 (平成30年度53.4%) ・「計画的に研修が実施されている」の項目の教職員肯定率 70%以上。 (平成 30 年度 50.0%)</p>	<p>(1) ア・首席による各分掌、各年次間の調整と分掌会議・年次主任会議の定例化は定着したが教職員の肯定率は 10.1%減少し、46.8%に留まった。 (△)</p> <p>(2) ア・教育相談支援委員会、いじめ対策会議等の各種会議と連携をはかり生徒を支援した。今年度の中退者数は6名、0.9%。 (◎)</p> <p>・教育相談に関する生徒の肯定率は 66.8%で目標値にわずかに届かなかったが 2.6 ポイント上昇した。(○)</p> <p>イ・「教職員間の相互理解・・・」の項目の教職員肯定率は 9.7 ポイント減少し 56.4%となった。 一方で、学校教育自己診断実施後の 12/23 に教職員の同僚性を高めるために教職員人権研修「風通しの良い職場づくり」を実施した。(○)</p> <p>・チームによる育成を継続し「経験の少ない教職員を・・・」の項目教職員肯定率は 58%で目標値にわずかに届かなかったが 4.6 ポイント上昇した。(○)</p> <p>・パッケージ研修Ⅰを活用したことで「計画的に研修が実施されている」の項目の教職員肯定率は26.6ポイント上昇し72.6%となった。(◎)</p>
--	--	---	--	---